

令和3年度 第2回千歳市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和3年7月13日(火) 14時00分～15時55分

会 場 総合福祉センター402号室

出席者 横田会長、品田委員、高橋委員、鈴木委員(代理：神田氏)、高本委員、五十嵐委員、榊原委員、廣島委員、荒井委員、二ツ屋委員、石川委員、池下委員、斉藤委員、久保田委員、杉浦委員(代理：志田氏)、古林委員(代理：中澤氏)、瓜生委員、倉重委員、菅井委員(代理：松原氏)、伊藤委員

欠席委員 小林副会長、吉田委員、三戸部委員、藤本委員、野田委員

事務局 企画部交通政策課 富成課長、遠藤係長、峯田主任

傍聴者 0名

(随行者 相互観光バス㈱取締役企画本部長、道南バス㈱札幌営業所副所長、北海道運輸局企画第二係長、北海道運輸局札幌運輸支局専門官)

【次第】

- 1 開 会
- 2 協議事項
- 3 閉 会

【協議結果】

- ・協議事項(1)～(2)について、承認された。

【会議要旨】

協議事項

- (1) 千歳市地域公共交通計画(素案)
(事務局より資料1に基づき説明)

(会長)

地域公共交通計画の策定についてであるが、今年16日から一か月間パブコメを実施し、市民の皆様から意見を伺い、また、市の内部でも議論を進めるということになっており、最終的には10月に策定するとしているが、本協議会のスケジュールはどのようなになっているか。

(事務局)

本日、素案を皆様に示しているが、今後、パブコメの意見などを踏まえて、9月に協議会を開催し、反映項目について説明させていただき、協議会で承認されれば決定となる。

それと併せて、具体的な路線や便数などを記載した地域公共交通利便増進実施計画について、実証運行を計画していることもあり、その結果も踏まえながら、令和4

年4月からの運用に合わせて協議を進めさせていただきたいと思っている。最終的には国への申請が必要となってくるため、申請は12月を予定していることから、9月の開催以降にもう一度協議会を開催し、具体的な内容を協議していきたい。

(会長)

全体的な内容を盛り込んでいる地域公共交通計画を策定するにあたり、9月に協議会を開催する予定のため、改めて皆様のご意見を伺う機会はある。それを踏まえ、現時点で意見があれば発言いただきたい。

(委員)

交通事業者の方にお尋ねしたいのだが、運転手の高齢化が進んでおり、確保が難しいことと、市民の路線バスの利用を増やすこと、この二つがポイントであると思っている。

その中で、各自動車メーカーで開発しているAIを搭載した自動運転システムを大型バスやタクシーで活用できるか、許認可の関係などわかるか。

(委員)

AIを使った自動運転ということで、具体的な内容というのは事業者でもわかりかねる部分があるが、確かに自動運転は一つのテーマとなっている。しかし、自動運転には車線を見極めるシステムもあると聞いており、北海道は雪があるので、すぐに取り入れられるかということが課題となっている。

今おっしゃられたとおり運転手は高齢化が進んでいる状況にあり、事業を継続していくためにもコロナ禍ではあるが、採用活動を継続していきたいと思っている。

(委員)

自動運転については今発言があったようなことが大きな課題となっており、すぐに実用化というのは難しいところであるが、AIを活用したシステムとして、通常決まった路線を運行しているバスが、面的に利用者を乗せ最短ルートで運行するような仕組みも出始めている。例えば、網走市でAIバスを導入しているという事例もあり、そういったAIの活用方法もあると思う。

(会長)

ほかにあるか。特になければ、この後の地域公共交通利便増進実施計画の説明の後にも、全体的なご意見などをいただければと思う。それでは、協議事項1の千歳市地域公共交通（素案）については協議済みとさせていただいてよろしいか。

(一同：意義なし。)

(2) 千歳市地域公共交通利便増進実施計画の概要

(事務局より資料2に基づき説明)

(会長)

詳細な部分もあり、ボリュームがあったが、全体を通じてでも結構なので、何か気づいた点やご意見などはあるか。

(委員)

市民の立場から質問させていただくが、今説明された内容について、本来であれば実際にバスを利用している方々に説明しなくてはならないのではないか。実際に利用者が少ないから減便するというのを、具体的に説明すれば、利用者は納得すると思うし、例えば、「100円で試験運行をしました。今までは試験運行であったため、これからは段階的に上げていきます」といった情報を実際に利用している人に説明するようにしないと伝わらないのではないか。「なぜ急に運賃を上げたのだ」という方が出てくると思う。市民周知の方法についての考えはあるか。

(事務局)

市民周知の方法であるが、一つは本協議会が市民の代表者が集まっているということがあるので、皆様の意見を聞きながら、より多くの関係者と協議を重ねていくということ、また、この協議会はオープンなものになっているので、協議内容については、ホームページ等で市民周知を図っているところもあるが、実際に市民にきめ細かに届くかという部分についてはどうかとも思う。

なるべく関係する市民について、特に実証運行は当該地区にとってはかなり重要なものになるので、地域の町内会に説明をしていきたいと考えている。

また、東部隊線を減便する内容も出てきており、特に東部隊の関係者には影響があると思うので、個別にご説明をしていきたいと考えている。

(委員)

市民の皆さんはデジタルサイネージも見ているので、そこに映し出してはいかがか。

(事務局)

千歳駅に2か所、もりもとに1か所、ホクレンに1か所、市民病院に1か所、合計5か所、バスの運行情報をリアルタイムで投映するサイネージを設置しており、テロップを作ることも可能なので、今いただいた意見も参考に、サイネージを活用した広報であるとか、バス事業者の協力も必要となってくるが、バス利用者への周知も検討していきたいと考えている。

(会長)

全体的な内容はパブコメ等で意見を聴取するが、従来からパブコメ制度はあるが、

多数の意見があるというわけではないため、パブコメをやっているということも周知しながら、具体的に大きく変わる部分、例えば路線の延伸だとかを地域の方々にどのように周知をしていくか、決まってからというのは様々な媒体で周知していくが、その前の段階でどのような形で意見をいただくかということも大事なことでと思うので、事務局を含めてよく検討していきたい。

(委員)

千歳市は「若いまち」と聞いている。国の指標によると、人口は2025年をピークになっているが、市ではそれに10年加え、2035年をピークとしており、その時にどのくらい高齢者がいるかわからないが、自家用車の保有率が千歳は高いので、免許を返納して、それからの利用率が上がるのではないかと思う。

しかし、それには時間もかかるため、この計画は令和8年までとなっているので、指標が決まっているのであれば、その年数まで考えていったほうが良いのではないかと。事務局や協議会の方々や事業者と長いスパンで考えていった方が、今の段階で細かく考えるよりは財政的な部分からも良いのではないかと。

(事務局)

今回の計画については、国の手引きに基づき5年を計画期間としているが、もう少し長期的な視点で見るとは必要かなとも思っているため、それも踏まえながら考えていきたいと思う。

(委員)

今回、キウス周堤墓群が世界遺産に認定される運びとなった。しかし、そこまでの公共交通機関として路線バスは走っていないので、ぜひタクシー会社に頑張ってもらいたいのだがいかがか。千歳駅からだと2,460円。今までの訪問者を見てみると、札幌か苫小牧方面に向かう方がほとんどで、千歳市内を往復する方はあまりいない。市内から来る人はほとんど自家用車なので、ワクチン接種が進み、公共交通を利用して世界遺産を見に行くにはタクシーしかないため、ぜひ南千歳駅や新千歳空港で客を乗せて高規格道路を通って行くという形で、これをチャンスとしていただければと思うがいかがか。

(委員)

タクシーは認可運賃になっているので、料金的な部分を頑張るといったことはすぐに回答できるものではない。今後の検討課題ではあるが、現時点では、各事業者は認可をもらった料金で走っているということが大前提になっているので、はっきりしたことを回答することはできない。

(会長)

世界遺産の関係は、議会においても二次交通などの課題は色々いただいております、そ

のあたりは認識している。ただ、現在コロナの状況を考えて、これから収束に向かっていくと思われる中で、どの程度の人がキウスに来るか、見込みについても、なかなか予測しづらい部分であるが、当然そのような需要も出てくると思うので、市全体での課題として考えていかななくてはならないものだと思っている。

(会長)

地域公共交通利便増進実施計画については、具体的な路線案が示されている。まずは、(仮称)桜木長都線の実証運行について期間等の確認や補足説明を。

(事務局)

実証運行については、国への申請が必要となってくるので、本日皆様の合意をいただければ実証運行の実施に向けた手続きを進めていきたいと考えている。実証運行は10月を予定しており、その結果については11月に開催を予定している協議会において報告をしたい。

(会長)

その他路線の方針について説明したところだが、みどり台線については、個人的には特に若い世代の人口が伸びている地域ということで、これから発掘できる要素があるのかなと思っていたところだが、意外と利用が少ないという現状があるのだと。

泉沢市民病院線のリハ大行きが遅い便について、結構利用があるように思うがどのような利用があるのか。

(事務局)

千歳リハ大行きの18便以降については利用が多くなっているが、向陽台から通勤・通学している人が帰宅のため利用しているため多くなっている。先程の説明で、夜の便が少なくなっており、そこを減便したいとバス事業者から話があったと申したが、それは泉沢向陽台線の千歳駅行きのことで、その6便目以降が夜の便となっており、夜に向陽台から市街地へ向かう人がいないということである。泉沢向陽台線は、朝と夜の便がほとんどで日中の時間帯は市民病院まで向かっている。

(会長)

ほかに意見がなければ、協議事項2の千歳市地域公共交通利便増進実施計画の概要については協議済みとさせていただいてよろしいか。

(一同：意義なし。)

(会長)

それでは最後に何かご意見、ご質問はあるか。

(委員)

本計画の話ではないが、一言お礼を言わせていただきたい。千歳市におかれては、地方創生臨時交付金などを活用して公共交通事業者に支援をいただき、この場を借りてお礼申し上げます。バス・タクシー事業者については、公共交通という使命のもと、会社を維持していくため、様々な方策を講じながら運行を継続しているところである。引き続き厳しい状況が続くと思うが、公共交通の維持確保にご協力をお願いします。

(会長)

それでは最後に事務局から連絡をお願いします。

(事務局)

長時間にわたりご参加いただき感謝申し上げます。先程も申したとおり、次回の開催については9月頃に開催を予定している。内容については地域公共交通計画のパブコメ等の意見を反映させて案としてお示しする。

また、地域公共交通利便増進実施計画については、本日概要を説明したが、今後は実証運行の手続きを進めながら、次回は素案という形でお示しさせていただきたい。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(会長)

それではこれをもって本日の協議会を終了させていただく。

以 上